

実践報告

教員免許状更新講習の成果と課題

高橋 泰道*・徳本 達夫**・杉山 浩之**

Result and Problem of Teaching Certificate Update Course

Taidoh TAKAHASHI*, Tatuo TOKUMOTO** and Hiroyuki SUGIYAMA**

はじめに

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入された。教員免許更新制は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すことを目的としている。

これを受けて本学では、平成20年に予備講習（共通必修コース）を実施し、結果的に広島県内で唯一、また中四国九州地区の私立大学で唯一の実施校となった。そして、その成果と課題を踏まえ、平成21年に本講習を実施した。

現在、政権が交代し、教員免許更新制等の今後の在り方について、抜本的な見直し（教員養成課程の充実や専門免許状制度の導入の検討を含む。）が行われているところであるが、筆者らは、この更新講習について様々な評価を持ちながらも、最終的には、「上からさせられている」という受け身の立場ではなく、更新講習を本学の地域貢献及びFD活動の一環として捉え、本講習を行うことによって、地域貢献及びFD

活動推進に関わって、どのような成果と課題があったのかを検討していくこととした。

本稿は、その成果の一端をまとめたものである。

1 更新講習の目的と概要

筆者らは、この度の更新講習を行う上で、以下の点について検討することを目的として取り組んだ。

* 現場教員の研修意欲・研修ニーズの把握

* 大学教員の地域貢献

* 大学教員の授業力の向上

* 大学の教員養成カリキュラムの見直し

また、広島文教女子大学における更新講習の特色としては、以下の点が挙げられる。

- ① 広島県内で唯一の予備講習（共通）を実施
- ② 広島県・市教育委員会との連携協力
- ③ 全学体制で対応（学内の複数学科の教員で対応）
- ④ 講師の半数は、小・中学校・高等学校の教員経験者

実際の講習モデルとしては、平成20年の予備講習において、「共通必修コース…教育の最新事情」（12時間、講義形式）と「選択コース…教育内容の充実」（各18時間、講義・演習形式）

* 本学准教授

** 本学教授

の中学校・高校国語科コース、中学校・高校英語科コースを実施し、平成21年の本講習では、さらに幼稚園コースと小学校コースを追加して講習を行った。

以下、本稿では、特に平成21年度に行った「共通必修コース」と「選択コース」の幼稚園、小学校の講習について、その実際の様子を紹介し、考察していく。

2 「共通必修コース」の講習の実際と考察

(1) 講習の概要

「共通必修コース」は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に、「教育の最新事情」をテーマとして、8月1日（土）と2日（日）の2日間、以下の内容について、講義形式で計12時間行った。

- ①学校を巡る状況変化
- ②専門職たる教員の役割
- ③子どもの発達に関する課題
- ④子どもの適切な指導
- ⑤学習指導要領改訂等の動向
- ⑥教育改革の動向
- ⑦学校マネジメント
- ⑧学校における危機管理上の課題

共通必修コースの募集及び受講者数については、下表の通りである。

予備講習では、試行であり、受講料は無料で

共通必修コースの募集及び受講者数

	講習期間	募集員数	応募者数	最終受講者数
予備講習	8月18日 ～19日	60名	767名	244名
更新講習 (2009年)	8月1日 ～2日	150名	80名	68名

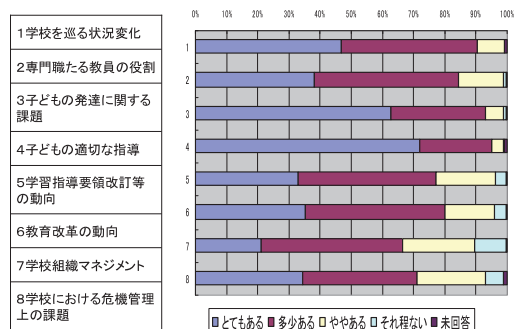
あった。募集定員60名に対して767名の応募があり、講習の質の維持と本学の施設設備とを総合的に勘案した結果、急遽最終受講者数を244名として講習を行った。そのため、予想されたこととは言え、受講者からは、内容面より、講習を行う上での学習環境面での問題点が多く挙がった。

そこで、21年度の本講習では、定員を150名に増やした。しかし、本講習では、市内の他大学も実施したため、最終受講者数も68名となり、学習環境面では、ゆとりを持った講習を行うことができた。



内容面については、事前に現場教員の研修意欲・研修ニーズを探る調査を行った。本講習での事前調査の結果は以下の通りである。

事前調査結果（共通コース）



事前調査結果からは、①学校を巡る状況、③子どもの発達に関する課題、④子どもの適切な指導について、関心が高いが、⑦学校組織マネジメント、⑧学校における危機管理上の課題に

については、関心が低いことが明らかになった。

そこで、①③④の内容について、講義の時間を十分に取ることと共に、⑦については、学校と保護者の連携について重点化し、⑧については安全管理と情報セキュリティの2本立てで行い、最大限現場教員のニーズに応えようとした。

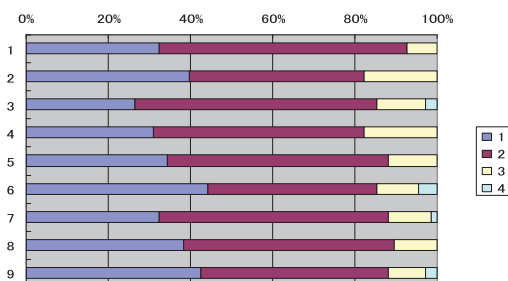
(2) 事後評価の結果

事後評価の視点は、下表の通りである。

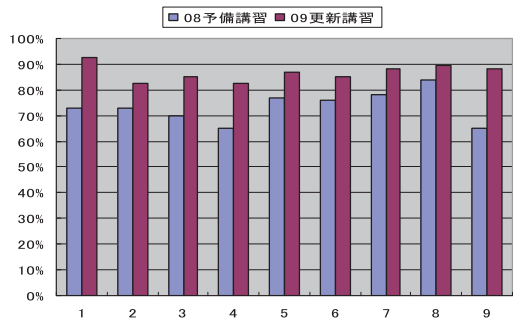
事後評価の視点

1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識の反映
2. 講習のねらいや到達目標の明確化、講習内容の妥当性
3. 学習意欲がわく工夫
4. 適切な要約やポイントの指摘等、説明の分かりやすさ
5. 配付資料等使用した教材の適切さ
6. 教職への意欲の再喚起、取り組みへの契機
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等の修得
8. 新しい指導法や技術等の習得、今後の教職生活の中での活用や研修の継続性
9. 講習内容への興味の深まり、苦手分野の克服の一助

また、評価の視点に基づいた事後調査の結果は下のグラフの通りである。(1：とても満足、2：大体満足、3：あまり満足しない、4：全く満足しない)



この結果から、どの項目においても「とても満足」、「大体満足」の合計が80%を超えており、当初の更新講習の目的をおおむね達成したと推察できる。また、下のグラフは、「とても満足」、「大体満足」の合計を前年の予備講習の結果と比較したものである。



どの項目においても、前年の予備講習の結果を上回っており、授業の工夫が見られたことが窺われ、FD活動の一環としても意義ある講習であったことが示唆できる。このことは、講習講師が相互に各講習に参加し、会議の内外で講習内容・展開について意見交換を行った成果であると考えられる。

事後調査の記述について各項目の主な意見・感想は、以下の通りであり、おおむね高い評価を得ることができた。(下線は筆者)

○「1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題」について

- 現場のお話や、色々経験なども聞くことが出来て、目からウロコな面もありました。本当に自分にとってとても貴重な体験が出来、刺激的な2日間でした。
- 子どもに直接関わる授業はイメージしやすかった。現場をふまえた講義内容でとても勉強になった。

○「2. 講習のねらいや到達目標の明確化、講習内容の妥当性」について

- 大学の講義はおもしろくないものと思っていましたがとても参考になりました。
- もう一度受けてみたい講義もあり聴講生になり

たいと思ったものもありました。

- 最初の〇〇先生の授業が心に残り、改めて自分にできることは？と振り返りました。
- 免許更新制は反対ですが、講習内容はとてもよかったと思います。
- 講習内容的にはわかりやすく興味深いものでした
- 講習内容は分かりやすいものが多く大変勉強になった。
- 良くも悪くも真面目な印象である。
- 授業の内容にも関わってくると思うが、テストの内容が気になりすぎて有意義な講習になりにくいと感じた。
- 多少なりとも興味が持てるような気がして申し込みましたが、実際に受けると、かなり思っているのと違う内容でした。
- 講座の中には、タイトルとかなりずれた内容だったり、先生の専門性が強すぎて内容が分かりにくかったりしたものがあり、少し残念でした。
- 先生方がいろんな力をつけてほしいと思われているのはよく伝わるが、たった1時間の授業では、内容が多すぎる授業もあった。多すぎると何も身につかないと思う。

○「3. 学習意欲がわく工夫」「4. 適切な要約やポイントの指摘等、説明の分かりやすさ」「5. 配付資料等使用した教材の適切さ」について

- ポイントを**しぼった講義**がわかりやすかった。
- 先生方の**親切丁寧に講義して頂いたこと**感謝です。
- 様々な個性の先生方にふれられて、とても楽しかったです。
- 個性に満ちていて大変興味深く受講させて頂きました。
- 全体的にどの授業もわかりやすく理解しやすかった。
- 先生方が皆様色々と準備して**くださり自分にとってよい研修**になりました。
- 講義の中には、もう少しポイントを**しぼり込ん**でほしいものもありました。
- 講義が中心なので**演習形式の内容もある**とありがたいです。

○「6. 教職への意欲の再喚起、取り組みへの契機」について

- これまでを振り返ると共に、今後の自分の課題や役割等が再確認できてよかった。
- 全く分からない事もたくさんあり、講習すべてが自分のものになったかは不明ですが、大きな

一歩になったことは確かです。

- どの講習もポイントをおさえられ、わかりやすく、理解でき、職場へ帰っても生かしていかなければと感じ、気持ちを新たにできました。
- 2日間にわたる講習を受講する前は不安でしたが、終えてみて、今まで学習せずに来たことの反省と受講してよかったと思います。明日からの実践に役立てます。
- 普段ゆっくり研修することがなく、2日間みっちり研修できました。知っていたことを再確認できたり、新たに学べたりすることができました。
- わかりやすく興味の持てる内容があり、これからの仕事への意欲につながった。
- 日々の業務に追われる中で、見失っていたことを思い出したり、現在の状況を知ることができたり有意義な時間になりました。
- 教職生活を振り返る良い機会となりました。福祉の視点等々興味深く、各講義を資質の向上に繋げていきたいと思っています。

○「7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等の修得」について

- 最近の教育事情については、親の立場でしか関わっていませんでしたので、大変勉強になりました。
- 私にとってはどの講義も新鮮な情報だったので、大変勉強になった。
- 改めて講義を聴き、勉強になりました。学校でも研修しているところですが、よりわかりました。
- 受講したことにより、国の教育の方向性、学校全体の動きが見えてきました。今後、学校図書館の運営に役立てていきたいです。日頃やっている調べ学習や図書委員会での活動につながることもたくさんあり、なかなか学ぶ機会がなかったので非常に良かったです。
- 学校外で研修できる貴重な機会なので、現場ですぐ使えたり、児童理解を深められたり、最近の動向に沿ったりしたものだと、より意欲的に学べたと思います。

○「8. 新しい指導法や技術等の習得、今後の教職生活の中での活用や研修の継続性」について

- また引き続きいろいろな勉強をしてみたいな
- 普段から教員対象にこのような講座が開設されることを望みます。
- どの先生方もわかりやすく授業を組み立ててくださっていました。もう少し詳しくお聞きした

いなと思う先生がたくさんおられました。夏休み中にこういうものではなく、教職員のための学習会を開いてくださったらうれしいです。
(今回の内容、教科内容等)

○「9. 講習内容への興味の深まり、苦手分野の克服の一助」について

- どの講習もとても勉強になりました。テストが気になって、そっちに気をとられて聞かないといけないのが残念でした。
- 80分という限られた中で教えるのは大変なことと思いましたが、盛りだくさんの内容を教えていただきました。
- 文教女子大学での講義は楽しく、目からうろこの部分もあり、再発見・再確認ができ、有意義な時を過ごせました。
- 今回受講していない現場の先生方に、ぜひとも聞かせてほしい！と思うお話も多くありました。以前の教師として、また今後、講師として現場に出るかも知れない時における自分のあり方について、教師の立場あるいは、保護者の立場の両方の面から考える良いきっかけになったのではないかと思います。

以上、共通必修コースを実施して、次の点が明らかになった。

- ① 予備講習は無料、今年度の更新講習は有料であるにもかかわらず、受講者の評価が向上している。
- ② 現場教員に対する講習内容、方法の工夫が見られ、教員の授業力の向上に寄与した。
- ③ 現場教員の研修ニーズを把握することにより、受講者の実態を踏まえた講習の充実を図ることができた。

3 「選択（幼稚園）コース」の講習の実際と考察

(1) 講習の概要

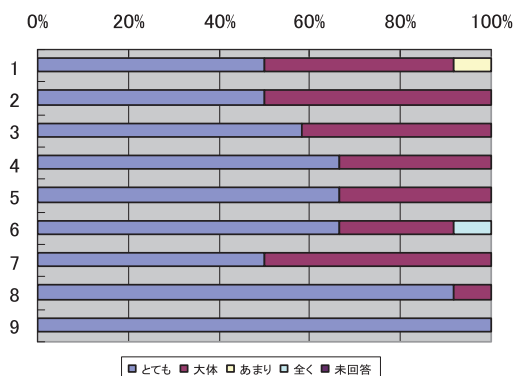
幼稚園コースでは、幼稚園の教員を対象に、「新幼稚園教育要領と幼児教育の充実」をテーマとして、8月18日（火）～20日（木）の3日間、以下の内容について、講義と演習形式で計18時

間行った。受講者数は、定員50名に対して、8名であった。

- ①子どもの権利条約と幼児教育（1.5時間）
- ②プロジェクトメソッドにおける対話と学び（1.5時間）
- ③保育実践の研究（1.5時間）
- ④幼小連携～協同的な学びから総合学習へ（1.5時間）
- ⑤造形～身近材を活用した作品づくり～（3時間）
- ⑥リトミックと幼児の表現（3時間）
- ⑦特別支援教育（3時間）
- ⑧保育絵本の歴史（3時間）

(2) 事後調査の結果

講習後、事後調査を行った結果は、下のグラフの通りである。



この結果から、どの項目においてもとても満足、大体満足の合計が90%を超えており、特に項目1、6以外は100%満足であり、当初の更新講習の目的を十分に達成したと推察できる。

また、事後調査の記述について各項目の主な意見・感想は、以下の通りであり、ここでも高い評価を得ることができたと考える。（下線は筆者）

- リトミックや特別支援教育は実際に学校で使えることがたくさん勉強できてとても良かったです。絵本の紹介もうれしかったです。どの講義もわかりやすく勉強になることばかりでした。3日間でも毎日体力的にしんどかったです。途中で体調が悪くなってしまったけど、テストが受けられないかなあとと思えなかった。(大丈夫でしたが…)
- 特にリトミックはすぐに実践にうつせそうでした。どの講義も大変意義深かった。ありがとうございました。
- 幼稚園コースの中に実践ですぐに役立ちそうなリトミックや造形があったことと特別支援教育もあったことから申し込みました。学校全体の雰囲気が良く、1時間30分かけて通ってもここでよかったと思います。ありがとうございました。
- いろいろな方面から日頃の保育を見直す機会となり、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 講師の先生の思いが伝わった良い講義でした。とても知らないこともたくさんあり、実りある講習でした。
- 先生方はとても親切でした。
- とても勉強になりました。なつかしい学生に戻れたような気がしました。帰り伝えることは伝えて現場に生かしたいです。生かせることがたくさんあり有意義でした。それぞれの先生方の人間性にもふれることができ、とてもうれしかったです。
- 選択コースということもあって、保育の実践にすぐ生かせる実技やこれまでの保育をふりかえったり、別の視点で見直す機会になる講義ばかりで、勉強になりました。特別支援に関する講義では、行きづまりを感じていた所をはっきり示していただき、今後の方向性も見えたように思います。

4 「選択（小学校）コース」の講習の実践と考察

(1) 講習の概要

小学校コースでは、小学校の教員を対象に、「新学習指導要領と小学校教育の充実」をテーマとして、8月18日（火）～20日（木）の3日間、以下の内容について、講義と演習形式で計18時間行った。受講者数は、定員50名に対して、76

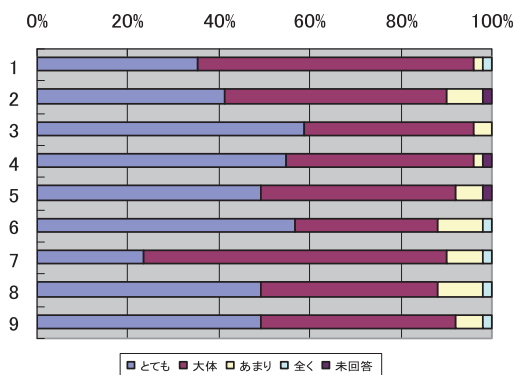
- ①小学校英語活動の指導法（6時間）
- ②自覚的な表現者を育てる国語科の授業（3時間）
- ③3Hで学ぶ算数教育を（3時間）
- ④a 社会的な見方や考え方を養う指導法（6時間）
- ④b 理科が苦手な教員のための指導法（6時間）

※④a 社会科・④b 理科は選択必修

名の応募があり、抽選の結果、51名が受講した。

(2) 事後調査の結果

講習後、事後調査を行った結果は、次のグラフの通りである。



結果から、どの項目においてもとても満足、大体満足の合計が90%近く、あるいは超えており、当初の更新講習の目的を十分に達成したと推察できる。

また、事後調査の記述について各項目の主な意見・感想は、以下の通りであり、ここでも高い評価を得ることができたと考える。(下線は筆者)

○「1. 講習のねらいや到達目標の明確化、講習内容の妥当性」について

- 具体的な教科の話で、現場で役立つこともたくさんあり、参加してよかったです。明日からの授業にすぐ役立つものばかりでうれしかったです。
- 3日間を終えて、とても勉強になりました。楽しかったです。内容もよかったです。講師の先生方の人柄からも学ぶことが多かったです。先生方の熱意がとてもよく伝わってきました。そこから学ぶことも多かったように思います。
- 英語の講習があったので、受けさせていただきました。とても参考になりました。丁寧で親切的な大学との印象をもちました。

○「2. 講習のねらいや到達目標の明確化、講習内容の妥当性」について

- 内容もよく分かり、9月からの授業にも生かしていきたいです。
- 講習された先生方がおもしろい方が多かった。ただ決まりきった型にはまったような講習でなく講習の3日間楽しかった。
- 演習が組み込まれている点はよかった。いろいろな教科・演習など選択範囲が広いとよかった。
- 最新の情報ではないが、今の教育で忘れられた？弱くなった？一番大切な原点を再認識した講習になりました。先生方の熱心なご指導が心に残りました。
- 主体的な学習がもっとしたかった。講義時間が長すぎる。「最近そちらの学校ではどうですか？」というもっとくだけた話が他の先生方としたかった。

○「3. 学習意欲がわく工夫」「4. 適切な要約やポイントの指摘等、説明の分かりやすさ」「5. 配付資料等使用した教材の適切さ」について

- 全ての教科において、とても充実した内容で大変勉強になりました。(資料等とても丁寧でわかりやすかったです)「やっぱり教職についてよかった」「もっとがんばりたい！」とエネルギーがわいてきました。
- 資料や教材の工夫などの用意がされており、参考になるもの、活用できるものが多くあった。
- どの教授の講義も、準備・工夫されていて、大変勉強になりました。初心にたち帰り、自分を見つめ直すことができました。
- 熱心に準備していただき、充実した3日間でした。私も教師としてしっかり教材研究して、準備に臨まなければ、と改めて思いました。
- 伝えたいことが多すぎるのもついていけなくな

る。ある程度余裕を持って教えてほしい。

○「6. 教職への意欲の再喚起、取り組みへの契機」について

- 目からウロコのことがたくさんありました。リフレッシュもできました。考え方のいろいろもあり、本当に、本当にステキな5日間でした。5日間で学んだことをしっかり胸に！！明日からまた頑張ります。
- 講習全体を通して、学生時代に戻ったようでリフレッシュできました。9月からも頑張れそうです。自分の学生の時より、先生方がひとりひとりに語りかけてくださる感じで、思いを伝えてくださる感じで、文教女子大のよさを、先生方のすばらしさをすごく感じました。
- 特に英語、算数、理科の講座を受講して、先生の魅力を感じ、また教えることの楽しさ、すばらしさを改めて感じることができました。また、少し学校に戻ってみようかなという思いが持てました。
- 教授の方々が日々勉強されていて熱意が十分伝わってきました。自分だけが大変なのだと憂いていたが、自分以上に大学の先生方が日々研修されていると知り、自らを振り返る機会となった。

○「8. 新しい指導法や技術等の習得、今後の教職生活の中での活用や研修の継続性」について

- 学校現場で使えそうなものもあってよかったです。
- 免許更新という枠ではなく、もっと学びやすい環境で講座を受けられるといいなあ、そんな機会に出会いたいと思いました。

5 更新講習から見てきたもの

政権交代により、平成22年度で更新講習は廃止されるという話も挙がっているが、2年間の教員免許状更新講習を実施したことにより、次のような成果が見られた。

- ① 予備講習で課題となった受講生数は、本年度他大学が実施したこととあいまって、適正規模となったため、本学での講習は集中度の高いものを展開できた。その成果は、前述した事後調査結果の評価の高さに現れており、

講義の内容・質ともに社会的評価に十分値するものと考ええる。

- ② 学校種別の3つの選択コース受講生のニーズに合わせて、学習指導と生徒指導の2つの講義は、それぞれの専門性を生かして独自に展開した。担当者の増員の成果である。この成果も、上記と同様に事後調査結果から見られる。
- ③ 予備講習で指摘された講座内容と試験内容との整合性の問題は、事前の試験問題の精選と論述式の問題とを合わせて出題したこと、担当講義の全体調整を行ったこと等によってほぼ解消された。ただし、筆記試験のことが気になって講習に集中できなかったというごく一部の受講生の声もあった。文科省等による本更新講習の趣旨の徹底が不足していたのかもしれない。「不適格教員の排除」という当初の意図が完全には払拭されていなかったということである。
- ④ 予備講習での講座内容を、本講習では整理・統合した。それによって、各担当講師が担当時間を十分活用して展開できたため、余裕のある中で質の高い講習が実施できた。
- ⑤ 以上の結果、予備講習での事後評価に比し、本年度の事後評価は各項目ともいずれも高い評価を得ている。口頭で耳にした受講生からの高い評価とあわせて、成果は数字にも現れているものと考ええる。

さらに、大学教員のFD活動推進の一環の視点から、教員としての授業力の向上と教職課程教育に従事する上での重点化項目が明らかになった。

講習担当者として、学生にだけ通用する授業ではなく、現職教員にとっても相応の学びを保障できるような講座を作りだすことは、教員としてのFD活動の一環につながる。筆者自身に

とっても、授業の見直しになり、さらに質の高い授業を展開できるようになったと考える。また、同僚の講習に参加することでお互いのFD活動にも寄与できたと考える。さらに、担当者による反省会を設けて、本年度のまとめと課題をまとめておくことが、FD活動をさらに充実させることにつながると考える。

また、教職課程履修生を教職へと誘う教職の魅力を感じさせる授業、教職を遂行していくための研究と修養との両面の必要性を感じてもらうための、専門性と人間性とを日々更新し続けようとする姿勢を身近に感じさせる実践を展開することを通して、学生時代にそれらの基礎の部分を得得させるような授業内容と方法を展開して実施していくことが最重要課題となる。それらの学びを、学びの集大成としての卒業論文へ結集させていくことによって、出口保障にもつながっていく。それらが長期的に見れば、将来を見通した教職課程教育の創造になる。その時々々の教育政策動向に左右されることなく、教育における不易を踏まえ、時代の社会の変化に柔軟に対応する教職課程教育が要請されている。教職課程教育を担う大学教員として、教職を目指す学生、教職に従事している教員とともに省察的实践家であり続け、教員文化を創造しなければならないと考える。

おわりに

前述の通り、2年間の講習担当経験は、授業の質の向上に結びついているものと考ええる。また、今回の経験を、担当教員だけの財産にとどめないで、本学全体の授業力の向上に結びつける方策が検討されなければならないと考える。今後は以下の点についても、さらに検討していきたい。

■ 現場教員の研修ニーズの把握と現場教員

の研修に対する意欲に応える場の設定
(地域貢献の充実…公開講座、研修会の
実施)

- 大学教員の授業力の一層の向上
(現場教員の評価に耐えうる授業力)
- 大学の教員養成カリキュラムの見直し

(基礎基本の習得と主体的に学ぶ態度の育
成)

付記：本講習の企画・運営・実施・評価に関わって、
本学事務局関係者・講習担当講師の方々並びに
講習受講生各位にお礼を申し上げます。